

解答・解説

凡例および注意点

① = 大問番号 1 = 段落番号 ❶ = 文番号

解答部

_____ = 正解部分
() = 省略可能
[] = 直前の語句との入れ換え可能

解説部

☐主 = 主語 ☐動 = 動詞 ☐目 = 目的語 ☐副 = 副詞 など
「 」 = 訳（基本は直訳）、あるいは強調
() = 省略可能、あるいは補足・別表現
【語句】 = 該当箇所の重要語句
[|] = 発音。左側が発音記号。右側が目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント
⇒ = 派生語・反意語 など
☐暗例 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする
【文法】 = 該当箇所の重要文法事項

日本語訳部

文構造にできるだけ忠実に、自然な日本語を心がけた

重要語句確認部

☐名 = 名詞 ☐動 = 動詞 ☐形 = 形容詞 ☐副 = 副詞 など
□ = チェック欄
[] = 発音記号
「 」 = 意味

解答

I

- 問 1. 翻訳ソフトがきつと言語をその場で翻訳してくれるようになるだろうという希望。(37 字)
- 問 2. 外国語の習得は 12 歳を過ぎてもまだ達成できるけれども、はるかに難しくなる。
- 問 3. 第二言語を学ぶことは子供の脳に有益で、記憶、論理的思考、学習、並行処理などの認知機能を向上させる神経経路を作るのに役立ち、また、コミュニケーションスキルの向上や、将来の職場でも役に立つということ。(98 字)
- 問 4. 旅行したかろうと、学びたかろうと、あるいは単に周囲の異なる文化とつながることを望もうと、第二言語を学ぶことは、科学技術の進歩の時代にあっても、それでもなお不可欠である。

解説

凡例： ❶ = 段落番号、❷ = 文番号

- 問 1 本文内容の一部を具体的に説明する記述問題。問題文の条件を正しく満たしたうえで、自然な日本語で、丁寧な字で解答する。不自然な日本語、乱暴な字では採点すらしてもらえない可能性がある。採点官に対する思いやりを忘れてはならない。なお、字数制限がある場合、1 割以内の誤差で解答することが望ましいとされる。この場合、「40 字以内」とあるので、36 字以上での解答を心がける。
- 下線部 (a) を含む英文、❷❶ The hope is that translation software will inevitably translate a person’s language in real time. は、述語動詞が be 動詞 is の第 2 文型 (SVC)。この文型は内容的に S = C が成立し、主語である下線部は、補語である that 節 (名詞節) と内容的に等しくなる。よって、下線部の内容は、that 節の内容を述べることで解答できる。inevitably を「避けられず」という否定的な文脈の意味で覚えている人も多いだろうが、単語の実質的なイメージから、文脈に合わせて訳語を選ぶよう心がけるとよい。
- 問 2 日本語訳の記述問題。自然な日本語になるよう注意し、代名詞などは具体的な内容を明らかにして、できるだけその日本語訳だけで意味が通じるよう心がける。また、意識する際には、英文の要素の抜けがないことを確認すること。
- 下線部 (b) は、❷ [Though foreign language acquisition is still achievable after 12], it becomes much more difficult. という構造。副詞節においては、acquisition 「獲得」(※動詞は acquire)、achievable 「達成可能な」(※ achieve 「達成する」+ able 「可能な」)、年齢を表す数字に注意。after 12 「12 歳の後」は、厳密には「12 歳」を含まない表現だが、ここでは数の厳密さが求められるわけではないから「12 歳以降」としてもよいだろう。「以降」は「その数を含む」表現である。主節において

- は、much 「(比較級を強調して) はるかに」などの意味に気をつける。
- 問 3 問題文の指示に応じて、内容を説明する記述問題。「100 字以内」とあるので、90 字以上での解答を心がける。筆者が挙げている「こと」を述べなさい、とあるので、「～こと。」で終えるようにするのが自然だろう。
- 下線部 (c) countless reasons to learn a language 「言語を学ぶための、数え切れない理由」のうち「子供の場合」として述べられているのは、❷❶ And learning a second language is good for the brains of children. 「そして、第二言語を学ぶことは子供の脳によい。」に続く部分に述べられているとわかる。❷～❸ It helps create neural pathways that improve cognitive function, including memory, reasoning, learning, and multitasking. 「それは、記憶、論理的思考、学習、並行処理などの認知機能を向上させる神経経路を作るのに役立つ。」 It also aids them with communication skills and gives them a leg-up in their future workplaces. 「それは、コミュニケーションスキルでも子供たちを助けるし、将来の職場でも優位になる。」の部分をもとめる。
- 問 4 日本語訳の記述問題。
- 下線部 (d) は、❷ [Whether you love to travel, love to learn, or just hope to connect with different cultures around you], ❸ learning a second language ❹ is ❷ still ❸ 補・形 essential ❷ in the time of technological advancement. という構造。副詞節中は、譲歩を表す接続詞 whether 「～だろうと」によって 3 つの動詞句 (love to travel, love to learn, just hope to connect 以降) が並列されている (※ 〈動詞句〉とは、日本語の述部にあたる、動詞以降の部分のこと)。主語の

you は「(一般的な) 人、人々」を表すので、とくに訳す必要はない。主節の主語は動名詞 learning が導く名詞句で、in the time of ～は時を表す副詞句。文の要素と副詞とをきちんと切り分けられれば、正しく意味をとることはさほど難しくないだろう。

日本語訳

英語は現在、世界でもっとも一般的な言語であるが、言語の専門家であるガストン・ドレン氏は、その治世が終わるかもしれないと信じている。

しかしそれは、中国語のような別の一般的な言語にその地位を奪う準備ができていないということではない。そうではなく、翻訳ソフトウェアや科学技術の革新によって、複数の言語を学ぶ必要性がまったくなくなるかもしれないと、ドレン氏は信じているのである。

その望みは、翻訳ソフトウェアが当然、リアルタイムで人の言語を翻訳するようになるだろうということだ。人気の SF 小説『銀河ヒッチハイクガイド』の翻訳するバベルフィッシュにちなんで名付けられた、「バベルチップ」として知られるこの装置は、別の言語を学ぶ必要性を免れさせようとするだけでなく、翻訳者の必要性そのものをなくそうとするかもしれない。

そして、私たちはすでに何度となく、さまざまな形でこの考えに近づいている。グーグルは最近、27 を超える言語をリアルタイムで翻訳できる、新しいグーグル補助アプリ「通訳モード」を発表した。

「あらゆる文化的、心理学的理由で、言語を学ぶことにはまだ価値があるでしょうが、大多数の人は気にしないでしょ」と、ニュース・ドットコム・エーユーのインタビューでドレン氏は主張している。

これは幅広い産業、とくに旅行業やサービス業に役立つかもしれない。子どもは生まれつき、8 歳以前には多くの言語スキルを持っているが、8 歳から 12 歳の間に外国語を再現する能力を失い始める。12 歳を過ぎても外国語習得はまだ可能だが、はるかに難しくなる。

これはまた、絶滅の危機にある言語にとっても有益かもしれない。ウィキタング計画は、こうしたことが起こるのを防ぐために、世界のあらゆる言語を記録、文書化しようとするものだ。「世界のあらゆる言語を考慮して、危機的に絶滅に瀕している言語、あるいは文書化が不十分な言語を文書化する機会があれば、私たちはそれを優先しています」と、ウィキタングの創設者の一人、ダニエル・ボグレ氏は言う。

「私たちにもっと資金があれば、最後に残された話者がお年寄りの、文書化が十分でない言語を私は優先したいのです。彼らの子孫が将来、その言語を復活させることを選んだとき、そのために必要な道具が彼らにあることを私たちが保障できるように。」

残念ながら、バベルチップが近いうちに準備されることはないようだ。さらに、そのチップが開発された時点でも、世界的

な採用にはずっと長い時間がかかりそうだ。この道具は世界中の文字通り何十億の人々をつなぐのに使われるかもしれないが、一方で言語を学ぶ数え切れない理由がある。

結局、文化が成長し発展したのは、文化のこの拡散と混合のおかげである。テキサス風メキシコ料理店は、メキシコの食文化の拡散とアメリカの料理様式を通して、アメリカでありふれた場所になった。ケイジャン料理は、18 世紀のカナダからアメリカへの、アケイディアン人の移住の結果として発展した。

そして、第二言語を学ぶことは子供の脳によい。記憶、論理的思考、学習、並行処理などの認知機能を向上させる神経経路を作るのに役立つのだ。コミュニケーションスキルでも助かるし、将来の職場でも優位になる。残念ながら、英語以外の言語を話せるアメリカ人は 5 人に 1 人と見積もられている。

言語は、文化をつなぐため、そして人々との相違を橋渡しする方法として、何世紀にもわたって使われてきた。旅行したかろうと、学びたかろうと、あるいは単に周囲の異なる文化とつながることを望もうと、第二言語を学ぶことは、科学技術の進歩の時代にあってもなお不可欠である。

注：入試本文では Gaston Dorren 氏を Gaston Darren と表記していたが、本書では Dorren の綴りに直している。